

あいさい通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山

愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内

電話：0567-55-9993

愛西 ワンダーワンド 探検



今年（2017年）は、オランダ人技師デ・レーケによる木曾三川の明治改修事業着工（1887：明治20年）から130年になります。

現在、愛西市の西端には、木曾川と長良川とが背割堤と呼ばれる堤防で分流され平行に流れています。これは明治改修による姿です。明治改修で愛西市付近の木曾川には、背割堤、ケレップ水制、ワンド（湾処）といった特殊な地形が形成されました。ケレップ水制とは、防災上、川の水を中央に集めて流れを制御するため、岸から川に対して直角に築いた石垣です。また、湾処（写真）とは、ケレップ水制で堰き止められた土砂が堆積して、湾の様な形状となった地形で、様々な植生が繁殖し、魚類や蟹、昆虫など水生生物の棲み処となり、鳥類もたくさん生息しています。この季節の代表は、カッコウ（郭公）とオオヨシキリ（大葎切）でしょうか。カッコウもオオヨシキリも、夏になると日本へ飛来して繁殖する夏鳥で、この季節には愛西市の木曾川河川敷などで鳴いています。

< 3頁に続く >

行々子 と オクラレルカ



5月から6月へ、田植えも終わり、水田や蓮根田に水が張られると、愛西市の農村地帯は最も緑が美しい季節で、各種作物もぐんぐんと成長します。この季節、愛西市の農道を走っていると、田畑からギョギョシ、ギョギョシと賑やかな声が大きく響いています。オオヨシキリという鳥のさえずりです。

オオヨシキリは、葎の茎に住む虫を食べるため、葎を切る習性から名前が付けられている鳥で、日本で繁

殖、子育てする身近な夏鳥です。しかし、鳴き声はよく聞きますが、目立たない姿で葎原に隠れていることが多く、姿を見ることは余りありません。

しかし、オオヨシキリは、その鳴き声から別名を行々子と言ひ、和歌や俳句で夏の季語として親しまれ詠まれています。江戸時代に尾張藩の重臣であり、愛西市を在所とする俳人・横井也有も、「言ひまけて 一羽は立か 行々子」などの句を詠んでいます。

オオヨシキリをインターネットで調べていたら、「オオヨシキリがオクラレルカのお花畑で元気に囀る」というとても美しい写真（上写真）を見つけました。

この写真は、日本野鳥の会の会員である名古屋市守山区在住の高桑洋さんが愛西市早尾町で撮影され、2015年日本野鳥の会会員証に使用されました。この季節における自然豊かで爽やかな愛西市の風景を見事に切り取っていただいております、このたび、愛西市観光協会での写真使用にも快く承諾いただきました。ご提供ありがとうございました。

オクラレルカは、アヤメ科（綾目：（英語）アイリス）の美しい花です。ハナショウブの一品種として愛西市でも生産され、華道の材料として花や葉が使われています。全国的には沖縄県大宜見（おおぎみ）村にある大群落が有名のようです。オクラレルカという名前（英語）も面白いですが、花言葉はアヤメと同じく「良い知らせ」、縁起が良さそうな花です。

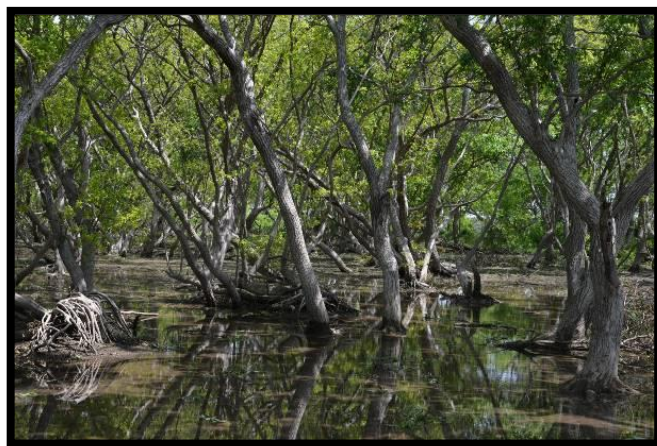
ちなみに、愛知県の花は杜若（カキツバタ）、三重県の花は花菖蒲（ハナショウブ）、岐阜県の花は蓮華（レンゲ）で、いずれの花も三県が接する愛西市にはたくさん見られ、晩春から初夏の当地を彩っています。

また、この季節は、愛西市特産のカラーも出荷のピークです。カラーという名前は、学名の属名（サトイモ科ヒメカイウ属（姫海芋、*Calla palustris*））をカナ読みしたもので、ブライダルブーケとして人気があります。

愛西 ワンダーワンド

愛西市の木曾川には、左岸（東側）にも右岸（西側）にもケレップ水制があり、湾処（ワンド）が広がっています。左岸側の河川敷は乾いた砂地となっており、セーリング、ラジコン飛行機、あるいは、バーベキューやデイキャンプなど、それぞれの愛好家が楽しむ楽園となっています。その一方で、右岸側の背割堤は、サイクリングやランニングの愛好家に親しまれています。そして、河川敷の湾処には、ワイルドな森（写真）が形成され、野鳥の楽園となり野鳥愛好家や釣り人が入っています。湾処の森には、ヤナギやニセアカシアなどの木々が茂り、この季節には、ニセアカシアやノイバラ（野茨）の白い花々が緑に映え、岸边には葦原が広がり新芽を伸ばしています。

背割堤に立つと、湾処の森からカッコウの声が響いています。カッコウという鳥は、鳴き声は知られていますが、その姿を知っている人は少ないかもしれません。カッコウによく似た鳥としてホトトギスがあります。ホトトギスも同じカッコウ科の鳥で、姿も生態もよく似ていますが、鳴き声が「キョッキョッ キョッキョッキョ」とも「ホ・ト・ト・ギ・ス」とも聞こえ、鳴き声は「特許許可局」や「テッペンカケタカ」などと表現されます。



カッコウ（郭公、閑古鳥）の鳴き声は、西洋では文学的に明るい楽しさを表しますが、古来日本人はその声に物寂しさを感じていたようで、店舗などが寂れた様子を「閑古鳥が鳴く」と言います。また、このことわざには「中国の天子が、その施政について諫言しようとする人が打ち鳴らさせるように太鼓を設け、これを諫鼓（かんこ）と呼びました。しかし、天子が善政をしたので太鼓が鳴らされることもなく、永年の間に鶏の遊び場（諫鼓鶏）となった」という伝説を語源とする異説もあり、その元の意味は天下泰平の象徴です。

一方、ホトトギスは、古来様々な文書に登場し、杜鵑、杜宇、蜀魂、不如帰、時鳥、子規、田鵲など多様な漢字表記があり、郭公（ホトトギス）と記載された例もあります。愛西市を在所とする横井也有も、ホトトギスを題材としてたくさんの句を詠んでおり、例えば「まつ恋に 捨る夜明を 郭公（ホトトギス）」などがあります。さらに、ホトトギスといえば、江戸時代後期の平戸藩主・松浦清の随筆『甲子夜話（かっしやわ）』に書かれた尾張三英傑の性格を示す川柳「なかぬなら 殺してしまへ 時鳥（織田信長の短気さと気難しさを表現）」などが知られています。

今日も木曾川ではカッコウ、ホトトギス、オオヨシキリが鳴いています。昔の方が自然を観察する力は優れていたと思いますが、愛西市の湾処で、のどかな声を聴きながら自然や人生の不思議（ワンダー）を随想すれば、良い俳句が思い浮かぶこと必定です。木曾川に来られた時、木曾川観光船に乗る時などには、木曾川の雄大な流れを見ながら耳も澄ませてください。

蛇足ながら、これらの鳥が一緒にいるということは、カッコウやホトトギスがオオヨシキリに托卵する関係にあるためであり、これも生物多様性の不思議（ワンダー）と言えます。

また、湾処（ワンド）という言葉は、デ・レーケが河川改修を指導したため、「ワンドラ」というオランダ語がなまって伝わったとされます。来年（2018年）は明治維新150年にあたります。機会があれば、今後、定期的にワンダーワンド見学会を開催したいと考えています。

～ 愛西市周辺の観光 今後の予定 ～

- 5月25日(木) 愛西市観光協会・ボランティアガイドの会 総会(於:佐織公民館)
26日(金) 高畑水没遺跡見学会(於:木曾川背割堤)
7月 8日(土) 愛西市中央図書館・歴史講演会
8日(土)・9日(日) 蓮見の会(於:森川花はす田)
8日(土)・9日(日) 尾張津島天王祭市江車斎竹立てなど(於:愛西市東保町)
22日(土)・23日(日) 尾張津島天王祭(於:津島神社周辺)
8月 3日(木) <雨天時は10日(木)> 水生生物による水質調査
(於:馬飼大橋下の木曾川河川敷(羽島市) 主催:木曾川下流河川事務所)
6日(日)・11日(金・祝)・20日(日) 漁業体験
(於:愛西市葛木町・三和町周辺の木曾川 主催:愛西市観光協会)

V G 6月定例会の予定

集合時間:6月18日(日)8時～ 集合場所:佐織公民館
内 容:佐織地区散策、10時～:会議(2017年度の事業について)

◇5月定例会(5月21日(日)9時～11時、於:愛西市中央図書館、23人出席)議事録

1) 愛西市中央図書館主催の愛西市歴史・文化講座について

午後に実施された講座について事前打ち合わせし、コースを確認しました。

季節外れの猛暑の日となり、熱中症の発生が危惧されましたが、愛西市中央図書館主催講座の初回として、50人の参加があり盛況な事業となりました。

2) 5～8月の催事について

ボランティアガイドの会総会など、5月開催の催事について、当日の担当を確認しました。また、蓮見の会、漁業体験など、7～8月の催事予定について日程、実施内容を説明し、協力希望者数を確認しました。

6月のバス研修について、コースと内容を説明し参加可否を確認しました。

3) 5月の活動報告について

「全日本うまいもの祭り」「木曾三川交流レガッタ」について、催事協力の報告をしました。

4) その他:入会希望者2名の同席をいただきました。



出逢い・ふれ逢い・あいさい写真コンテスト 作品募集中

詳細は、愛西市観光協会 HP: <http://www.aisaikankou.jp> を参照下さい。

応募・問い合わせは、愛西市観光協会まで

愛西市観光協会:愛西市森川町井桁西 27 電話:0567-55-9993

愛西市ホームページに『愛西市紹介ビデオ』ができました。観光船の空撮が面白いです。

クリック <https://www.youtube.com/channel/UC1q8a2jjRaog33ZphBfUbwg>